

決算説明資料

2026年3月期 第2四半期(中間期)

2025.10.30 アイザワ証券グループ株式会社 証券コード:8708

■アイザワ証券グループ



Agenda

 サマリー
 P 2

 KPIの進捗状況
 P12

 中期経営計画
 P16

本資料に関して

本資料は、2026年3月期第2四半期(中間期)決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料は2025年9月末日現在のデータに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて お客さまとそのご家族の人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にする価値観

チャレンジ

リレーション シップ プロフェッショナ リズム

チームワーク

PVVイメージ動画

PVVのイメージ動画をアイザワ証券グループホームページに 掲載しております。

https://www.aizawa-group.jp/company/pvv.html



アイザワ宣言

お客さまへ

私たちはお客さまの未来を見据えた 金融サービスを提供します

株主の皆さまへ

私たちは持続的な成長を通じて 企業価値向上に努めます

社会へ

私たちは地域との繋がりを大切にし 社会の発展に貢献します

従業員の皆さんへ

私たちは社員一人ひとりを尊重し 成長と挑戦を後押しします 営業収益

9,937百万円

前年同期比: + 4.2%

ストック商品預り資産

5,165億円

前年同期比: + 30.9%

親会社株主に帰属する純利益

1,000_{百万円}

前年同期比: △ 34.4%

総預り資産

2兆3,087億円

前年同期比: + 19.2%

ROE

4.4%

(2026年3月期2Q累計利益を年率換算)

前期比: △ **1.9**pt

実質ストック収益 実質販管費カバー率

29.8%

前期比: + **0.9**pt

※1 実質ストック収益:信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額 ※2 実質販管費:アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

社長メッセージ

当社は、中期経営計画で目指す「お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成の伴走者」としてのビジネスモデルを確立する為、事業構造・収益構造の転換に努めています。これは新たな証券事業への変革であり、当社にとって非常に大きな挑戦です。お客さまのライフプランに寄り添い信頼関係を構築するゴールベースアプローチ型営業へのシフトは、その根幹となる取組みであり、当社の預り資産の増加と中長期的な収益に繋がり、安定的な連結ROE8%以上の達成を可能とするのです。この一連の流れが中長期的な企業価値を生み、株価並びにPBRを継続的に向上させ、当社の資本コストや株価を意識した経営を体現するものと確信しています。

また、2025年4月に策定したパーパス・ビジョン・バリュー(PVV)とアイザワ宣言の定着に加え、構造 転換への強い決意を伝える目的で2025年12月までに本社及び31支店でのタウンホールミーティング (P.18参照)を実施しています。引き続き新たな企業理念の周知・浸透を徹底していくとともに、事業構 造・収益構造の転換に邁進してまいります。 資本コストや株価を意識した経営

■ アイザワ証券グループ

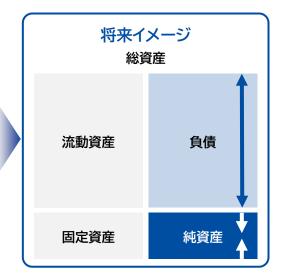
資本コストを安定的に超える利益を計上できる事業構造へ変革することで企業価値向上を目指す。 毎年度のROE水準を意識すると同時に、安定的にROE8%以上を達成できる事業構造・収益構造への変革を行い、「中期的な企業価値向上を目指す」方針。

企業価値の向上に資する各種施策 PBRの向上(企業価値の向上) ROE向上施策×PER向上施策 株主環元策 証券事業の変革 投資事業のグレードアップ IR強化 人的資本投資への取組み強化 運用事業の再構築 生産性の向上 サステナビリティ推進 コンプライアンスの強化 リスク管理の強化

財務戦略

連結貸借対照表





財務レバレッジの活用

財務レバレッジの活用等による資本効率重視の財務戦略を実行し、効率的な事業運営を行う。

社債の発行

財務安定性の向上を企図し、将来の成長に必要な資金を機動的に調達することを目的として、2025年9月末時点で総額110億円の社債を発行。

お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成の伴走者としてのビジネスモデルを確立し、 安定的にROE目標を達成できる事業構造・収益構造に転換する3年間と位置付ける

アイザワの目指す「伴走者」とは

お客さまとそのご家族の資産運用・資産形成に関して、継続的にお話を傾聴し、それぞれのライフステージに合った 提案・アドバイスを送り、世代を超えて対話を続ける、長期にわたる人生のパートナーです。

環境認識

「対面による継続的対話・ アドバイス」へのニーズの高まり

- 「貯蓄から投資へ」の大きな流れにより、 個人の資産運用・資産形成の関心が集ま る
- 長期目標に対して、対話による継続的アドバイスへのニーズが高まっている

中期経営計画 (2025年4月~2028年3月)

事業構造・収益構造の転換

- 「ゴールベースアプローチ型」営業と「地域 密着」を徹底することで「継続的・長期的に お客さまに寄り添う」価値を提供
- 毎年度の利益水準に注意しつつ、中期的な 企業価値の向上を最優先

当社が目指す将来の姿

資産運用・資産形成を通じて お客さまとそのご家族の 人生の伴走者となる

- 長期にわたる人生のパートナーとして、お客さまとそのご家族の人生の伴走者となる
- 市況に左右されない、安定的な経営体制 を実現し、安定的にROE目標を達成

従来のマーケットベースアプローチ(MBA)からゴールベースアプローチ(GBA)型営業への転換

お客さまの長期的なライフプラン実現に向けた資産運用計画の策定から実行までをサポートする営業スタイルへの 転換を進めています。お客さまとそのご家族の長期的な資産運用・資産形成ニーズに対し、お客さまごとに達成した い将来のゴールに基づいた資産運用プランを提供し、契約後は現時点のゴール達成確率などをもとにアフターフォ ローを継続的に実施します。ゴールベースアプローチ型営業は従来のマーケットベースアプローチとは異なり、相場 に左右されにくいため安定的な収益構造を構築することに寄与します。

アイザワ証券が目指すゴールベースアプローチ(GBA)型営業とは

お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供 個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援

営業スタイルの変革

従来の 活動の主軸 当社の 【マーケット 提供価値 ベース アプローチ (MBA)]

投資の目的

主に値上がり/利回りへの期待

- 値上がり等が期待できる商品の提案 商品・相場の知見の提供
 - 相場変動に応じた迅速なフォロー・対応
 - ソリューションサービスの提供

お客さまとの 関係性

投資に関して相談いただけるような リレーション

今後の 活動の主軸

【ゴールベース アプローチ (GBA)型営業) 投資の目的

将来の計画やライフスタイルの実現に 向けたゴールの達成

当社の 提供価値

- ゴール達成のためのプラン提供
- ライフプランに沿ったトータルサポート
- ゴール達成に向けたサポート・フォロー
- ソリューションサービスの提供

お客さまとの 関係性

お客さまのライフプランに寄り添える ようなリレーション

※マーケットベースアプローチ(MBA)…金融機関が値上がりや利回りを期待できると考える金融商品(株式や投資信託など)を提案する営業スタイル

· ゴールベースアプローチ(GBA)型営業を推進する試行店の拡大

2025年4月からGBA型営業をより推進する試行店を5支店でスタートしました。試行店では今まで以上に、お客さまやそのご家族との対話やヒアリング(傾聴)に努め、お客さまのゴールに基づいた商品・サービスの提供を重点的に行っています。試行店でのノウハウの蓄積や共有などが進んでいることにより、2025年10月から6支店を追加しアイザワ証券全支店の1/3ほどに拡大しました。ゴールベースアプローチ型ラップサービス(愛称:スマイルゴール)の契約資産・件数とも順調に推移しています。

試行店の取組み

試行店は、従来のMBA型からGBA型のサービス提供に変化した姿を体現した店舗です。当社に合ったGBA型営業および必要なサポート体制等を見極め、ノウハウの蓄積と共有に努めています。

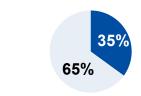
- ゴールベースアプローチ推進担当役員を設置し、業務の推進・管理・評価を行う
- 従来店と異なり、お客さまとの長期的な信頼関係の構築に繋がる活動を評価
- ■試行店 ■従来店(コンサルティングプラザを除く)

2025年4月~9月

2025年10月~2026年3月

2026年度中 全店展開の予定



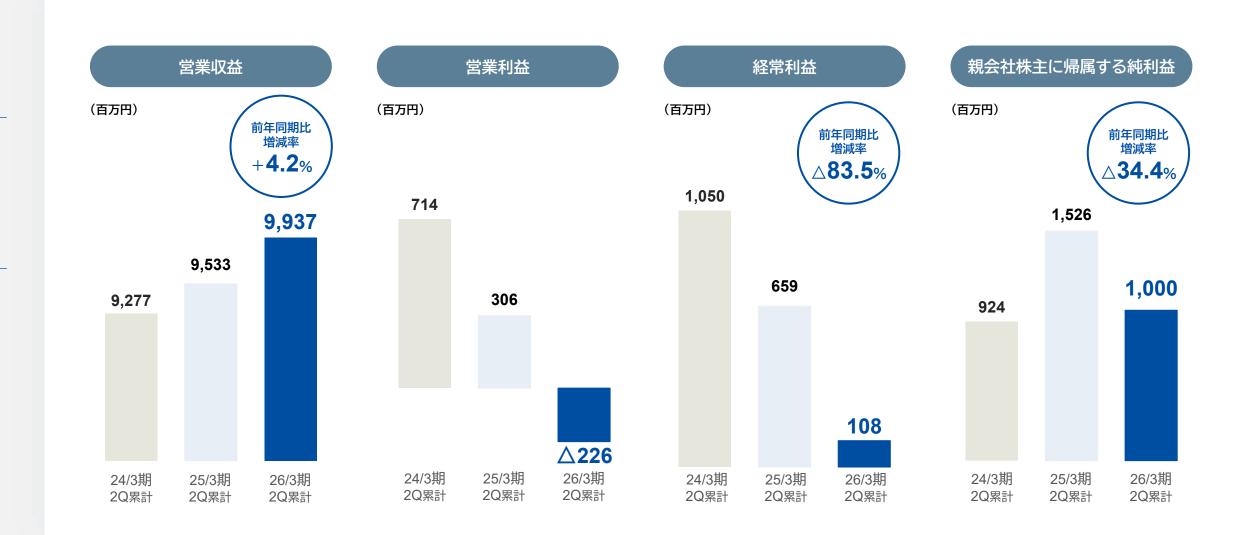




ゴールベースアプローチ型ラップサービス(愛称:スマイルゴール)



2026年3月期2Q累計は、市場の上昇の影響を受け、株式委託手数料や信託報酬が増加したことにより営業収益は 前年同期(2025年3月期2Q累計)比4.2%の増収となるものの、取引関係費や人件費等の販売費・一般管理費が増加したことにより 226百万円の営業損失となりました。その結果、経常利益、親会社株主に帰属する純利益は前年同期比減益となりました。



前四半期(2026年3月期1Q)との比較では、証券事業の業績が拡大し、営業収益が34.2%増加しました。 販売費・一般管理費が11.4%増加したものの、営業利益は349百万円となりました。親会社株主に帰属する純利益は、 投資事業の有価証券売却等による特別利益の計上で588.0%の増加となりました。

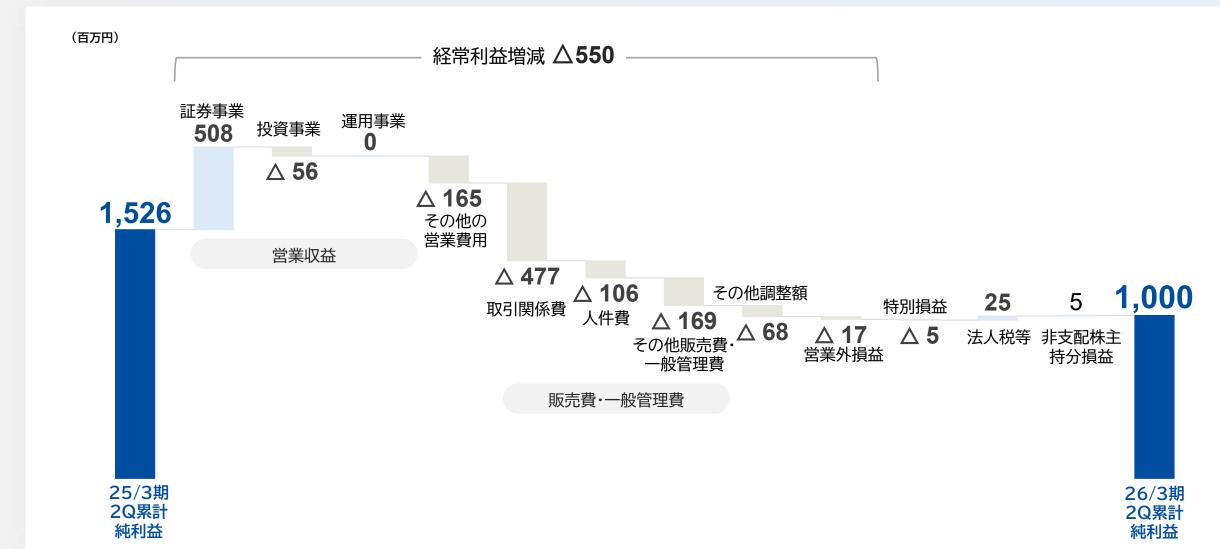
(百万円)	2Q	25/3期 3Q	4Q	26/ 1Q	3期 2Q	25/3期 2Q比 増減率	26/3期 1Q比 増減率	25/3期 2Q累計	26/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業収益	4,580	5,681	5,372	4,242	5,695	+24.3%	+34.2%	9,533	9,937	+4.2%
販売費•一般管理費	4,396	4,618	4,597	4,575	5,097	+16.0%	+11.4%	8,920	9,673	+8.4%
営業利益又は営業損失(Δ)	Δ42	1,009	570	△576	349	_	_	306	△226	_
経常利益又は経常損失(△)	46	1,182	729	△337	446	+853.7%	_	659	108	△83.5%
税引前利益	1,066	1,776	756	388	1,172	+10.0%	+201.6%	2,118	1,561	△26.3%
親会社株主に帰属する純利益	711	1,233	412	127	873	+22.9%	+588.0%	1,526	1,000	△34.4%
1株当たり 四半期純利益(円)	22.88	39.72	13.28	4.09	28.04	_	_	47.32	32.18	_

2026年3月期2Q累計 純利益 增減要因(累計) - [連結]

■ アイザワ証券グループ

市場上昇の影響もあり、証券事業の営業収益は前年同期(2025年3月期2Q累計)比で508百万円の増加となりました。 プラットフォームビジネズは順調に拡大していますが、それに伴い金融商品仲介業者への仲介手数料等の取引関係費が 477百万円増加しました。今後、プラットフォームビジネスを含む全社的な生産性向上のため、業務改革に取り組んでまいります。

※アイザワ証券のプラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス



中期経営計画

■ アイザワ証券グループ



証券事業

お客さまの資産形成を サポートするため、資産運用 コンサルティング等を行う



投資事業

有価証券、不動産、 成長企業に対して自己投資を 行う



運用事業

機関投資家を中心に オルタナティブ運用等の運用 サービスを提供

営業収益

9,491

百万円

前年同期比 + **5.7**%

より営業収益増加

税引前利益

281

百万円

前年同期比 △**10.2**% 営業収益

404

百万円

前年同期比 △**12.2**% 税引前利益

1,142

百万円

前年同期比 △**32.3**% 営業収益

120

百万円

前年同期比 + **0.7**% 税引前利益

△188

百万円

前年同期比一%

- •投資先のファンドからの収益減少
- 投資ポートフォリオの入替により投資有価証券 売却益計上

- ●運用するファンドの経費を運用事業にて計上
- ●ファンドの償還による費用増加

■ アイザワ証券



•株式委託手数料や信託報酬が増加したことに







資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期2Q	増減率
流動資産	70,047	90,626	+29.4%
現金•預金	14,405	28,283	+96.3%
預託金	24,783	33,571	+35.5%
営業投資有価証券	11,230	11,238	+0.1%
信用取引資産	15,478	12,727	△17.8%
信用取引貸付金	15,190	10,480	△31.0%
その他の流動資産	4,149	4,805	+15.8%
固定資産	39,481	42,993	+8.9%
有形固定資産	11,211	11,310	+0.9%
投資その他の資産	28,237	31,653	+12.1%
資産合計	109,529	133,619	+22.0%

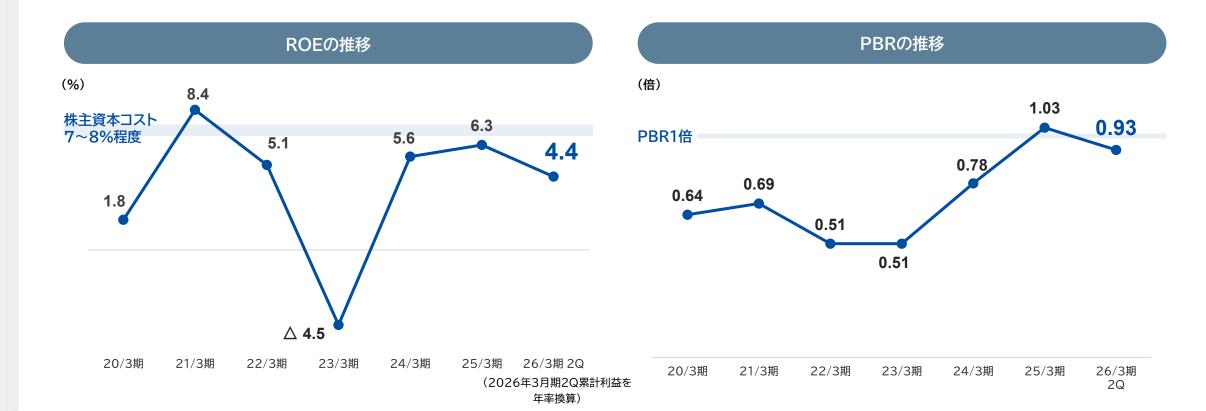
		- 1991
—	4 10 107 75	
 /	な増減要	디스니

現金・預金	預り金の増加により現金・預金が増加
短期社債	将来の成長に必要な資金を機動的に調達できる体 制を構築することを目的として、無担保社債を発行
純資産	保有株式の上昇によってその他有価証券評価差額金 が増加

負債・純資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期2Q	増減率
流動負債	51,150	74,561	+45.8%
信用取引負債	4,722	3,834	△18.8%
預り金	23,291	42,404	+82.1%
顧客からの預り金	18,927	26,726	+41.2%
その他の預り金	4,363	15,677	+259.3%
短期借入金	9,675	8,213	△15.1%
短期社債	6,000	11,000	+83.3%
固定負債	10,618	11,132	+4.8%
長期借入金	5,156	4,985	△3.3%
負債合計	61,929	85,857	+38.6%
純資産の部			
株主資本合計	35,557	35,095	△1.3%
うち自己株式	△8,508	△8,451	-
その他の包括利益累計額	9,007	9,836	+9.2%
その他有価証券評価差額金	7,968	9,124	+14.5%
純資産合計	47,599	47,761	+0.3%
負債·純資産合計	109,529	133,619	+22.0%

ハイライト

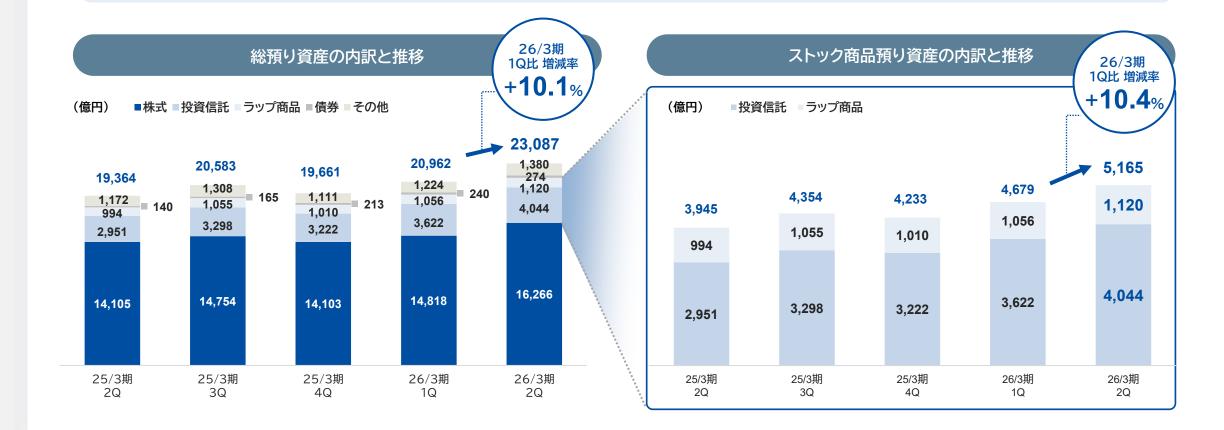
2026年3月期2Q時点のROE及びPBRについては、ROE4.4%(2026年3月期2Q累計利益を年率換算)、PBR0.93倍という結果となりました。現状、ROEは当社の株主資本コストを下回り、PBRは1倍を割れていますが、事業構造・収益構造の変革を通じて、安定的なROE8%以上の達成と株価並びにPBRの継続的向上を図り、資本コストや株価を意識した経営の実現に努めてまいります。



ハイライト

重要KPI

ゴールベースアプローチ型営業の推進やプラットフォームビジネスの拡大によりストック商品 (投資信託とラップ商品)の残高が積み上がり、また市場の上昇の影響もあり、総預り資産及びストック商品預り資産はともに過去最高額を更新しました。引き続き、相場に左右されにくい安定的な収益構造の実現を目指します。



ハイライト

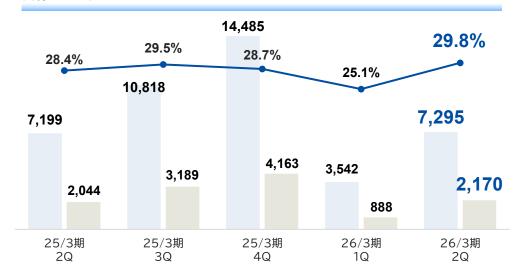
重要KPI

2026年3月期2Q累計の実質ストック収益 実質販管費カバー率は29.8%となり、2025年3月期累計と比較し、1.1pt増加しました。実質販管費は前年同期(2025年3月期2Q累計)と比較し、96百万円増加したものの、信託報酬の増加に伴い、実質ストック収益が126百万円増加しました。

実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(年度累計)

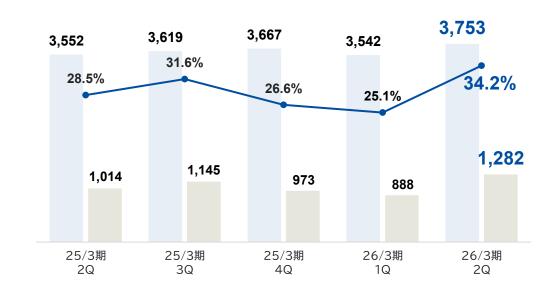
(百万円) 実質販管費 実質ストック収益 実質ストック収益 実質販管費カバー率

目標40%以上



実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(四半期別)

(百万円) 実質販管費 実質ストック収益 →・実質ストック収益 実質販管費カバー率



株主還元方針

■ アイザワ証券グループ

利益還元に関する基本方針

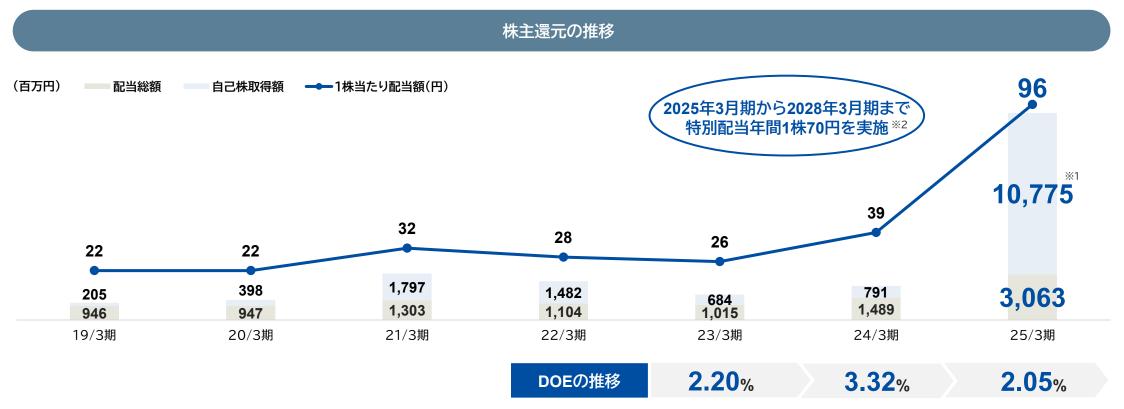
2024年4月26日に公表したとおり、2025年3月期から2028年3月期の間、 配当と自己株式取得による株主還元を総額200億円以上実施する

※総還元性向:(自己株取得金額+普通配当総額)÷純利益 ※DOE:普通配当金額÷株主資本

総還元 性向 50%以上

株主資本 配当率 (DOE)

2%超



^{※1 2025}年3月期に自己株式の取得(取得株数6,163,900株、取得価額の総額10,775,065,200円)を実施

^{※2} 特別配当の金額は、2024年4月26日時点で入手可能な情報に基づく一定の前提(仮定)及び将来の予測等に基づき見込んでいる金額であり、今後、分配可能額規制その他の法令上の規制や経営環境の変化等の事情により変動する可能性があります。

プラットフォームビジネスの強化

ライフプランの実現を目指すお客さまを有する、金融商品販売を本業としないIFA(主に保険代理店、預金金融機関等)と連携し、対面証券ならではの手厚いサポートを提供しています。資産形成層のお客さまの積立投資口座の 獲得と積立金額の増加に取り組んでおり、顧客基盤の拡大を図っています。

※アイザワ証券のプラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス

プラットフォーム預り資産(うちストック商品預り資産)

(億円) プラットフォーム預り資産 ■ ストック商品預り資産 ● □座数(口座) 3,372 2,993 2.801 2,724 2,587 71,946 69,014 66.347 60,630 57.421 1,189 1,003 878 817 694 25/3期 25/3期 25/3期 26/3期 26/3期 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q

契約金融商品仲介業者数





中期経営計画の事業戦略 投資事業、運用事業の状況 - [アイザワ・インベストメンツ株式会社、あいざわアセットマネジメント株式会社] 텉 アイザワ証券グループ

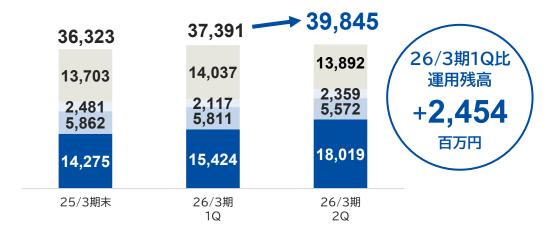
投資事業において、ポートフォリオリバランスを目的とした投資有価証券の売却による特別利益の計上に加え、運用資産が2026年3月期1Qと比較して2,454百万円増加しました。運用事業では、ファンドの清算手続に伴い運用資産が減少しました。

投資事業のグレードアップ

運用成績を中期的に極大化

中期的な運用成績の極大化を最重視し、それを目的としたポートフォリオ運用、リスク管理及びパフォーマンス評価を行います。 アセット売却による特別利益の計上のほか、保有資産の評価額が上昇しました。

(百万円) ■上場株式(国内外) ■非上場株式(国内外) 債券(国内外) ■その他(ヘッジファンド、不動産等)



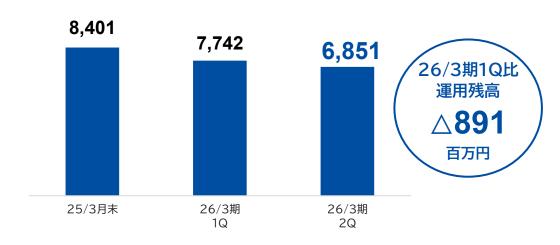
運用事業の再構築

プライベートアセットの運用資産残高増加に注力

プライベートアセットは、高いリスクに見合ったリターンが期待できるため、運用事業ではプライベートアセットの運用資産残高増加に注力します。

なお、あいざわアセットマネジメントは、2025年11月に増資及 び減資を行う予定です。

(百万円) ■プライベートアセット運用資産額



2025年4月に企業理念を刷新し、「パーパス・ビジョン・バリュー(PVV)」と、PVVを実現するためにステークホルダーの皆さまにお約束する「アイザワ宣言」を策定しました。社内外への周知・浸透を図っています。

※ PVV・アイザワ宣言はP.1をご参照ください。

社長タウンホールミーティング

パーパス・ビジョン・バリュー(PVV)とアイザワ宣言の周知・浸透を図るため、藍澤社長が各部支店でタウンホールミーティングを実施しています。

タウンホールミーティングの目的

- PVVとアイザワ宣言の周知・浸透
- 経営陣が事業構造・収益構造の転換に本気で取り組んでいる熱量の共有
- 全従業員が納得できるまで忌憚のない意見交換

実施状況

- 2025年9月末までで14支店、本社13部署とのミーティングを実施
- 2025年12月までに全部支店で実施予定







統合報告書2025

アイザワ証券グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社の 持続的な価値創造に向けた取組みをご理解いただくため、統合 報告書を作成しています。統合報告書2025を発行しました。

統合報告書2025

- パーパスに掲げる「より多くの人に より豊かな生活を」の実現に向けた、ゴールベースアプローチ型営業や地域密着の取組み
- アイザワ宣言をエンジンとした新しい価値創造プロセス
- 事業構造・収益構造の転換

アイザワ証券グループホームページに掲載

https://www.aizawa-group.jp/ir/library/integrated_report.html







決算説明資料 2026年3月期第2四半期(中間期)

Appendix

■ アイザワ証券グループ

_
C
9
202
GR
S.H.
Ë
SECHEL
4
AWA.
A

商号	アイザワ証券グループ株式会社
所在地	〒105-7307 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
連絡先	03-6852-7744
代表者	代表取締役社長 社長執行役員 藍澤 卓弥
創業年月日	1918年(大正7年)7月7日 (1933年(昭和8年)10月3日 設立)
資本金	80億円
従業員数	927名 ※2025年3月末時点

01

ゴールベース アプローチ型営業



02

プラットフォーム ビジネス



ライフプランの実現に向けて 伴走者を必要とするお客さま を有する、金融商品販売を本 業としないIFA業者さまや金 融機関さまに対し、金融商品 販売に有益な情報提供とサ ポートを行うとともに、システ ム等を提供いたします。 03

ソリューション サービス



課題の明確化からアフターフォローまで、個人の相続の経営者の事業承継、法のはがないます。 経営者の拡大、地域のは対しのない。 国内外のアライアンスネでは、 ロークなソリューションを提供いたします。

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて お客さまとそのご家族の 人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にする価値観

リレーションシップ プロフェッショナリズム 信頼

誠実 責任 使命感 調和 敬意 結束

チームワーク

事業戦略

証券事業の変革

投資事業のグレードアップ

運用事業の再構築

経営機能強化

コンプライアンスの 強化

取組強化

人的資本投資の

生産性の向上

リスク管理の 強化

サステナビリティ 推進

チャレンジ

行動力

成長

変革

株主還元方針

特別配当

思いやり

安心

2026年3月期~2028年3月期まで 特別配当(年間1株70円)を実施

普通配当& 自己株取得

前中期経営計画の方針を継続 普通配当および自己株式取得は総還元性向 50%以上、普通配当は株主資本配当率(DOE)

2%を超えることを基本方針とする

KPI

ROE (自己資本利益率)

8%以上

女性管理職 比率

15%以上

エンゲージメント スコア

80%以上

ストック商品 預り資産

8,000 億円以上

総預り資産

2兆5,000 億円以上

実質ストック収益 実質販管費力バー率

40%以上

企業価値向上

資本コストや 株価を意識した経営 ROE(自己資本利益率) 8%以上 2025年3月期 6.3%

事業目標

ストック商品預り資産

8,000億円以上 2025年3月末 4,233億円 総預り資産

2兆5,000億円以上 2025年3月末 1兆9,661億円

実質ストック収益※1 実質販管費力バー率※2

40%以上 2025年3月期 28.7%

非財務目標

女性管理職比率

15%以上 2025年3月末 13.8%

エンゲージメントスコア※3

80%以上 2025年3月期 72.1%

AIZAWA SECURITIES GROUP CO., LTD

資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期2Q	増減率
流動資産	70,047	90,626	+29.4%
現金·預金	14,405	28,283	+96.3%
預託金	24,783	33,571	+35.5%
営業投資有価証券	11,230	11,238	+0.1%
トレーディング商品	347	488	+40.6%
約定見返勘定	1,294	1,463	+13.0%
信用取引資産	15,478	12,727	△17.8%
信用取引貸付金	15,190	10,480	△31.0%
立替金	521	756	+45.0%
その他の流動資産	1,985	2,097	+5.6%
固定資産	39,481	42,993	+8.9%
有形固定資産	11,211	11,310	+0.9%
賃貸不動産	9,259	9,310	+0.5%
無形固定資産	32	29	△9.4%
投資その他の資産	28,237	31,653	+12.1%
投資有価証券	25,208	29,075	+15.3%
貸倒引当金	△8	△7	-
資産合計	109,529	133,619	+22.0%

負債・純資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期2Q	増減率
流動負債	51,150	74,561	+45.8%
トレーディング商品	24	186	+656.6%
信用取引負債	4,722	3,834	△18.8%
信用取引借入金	4,173	1,098	△73.7%
有価証券担保借入金	482	1,559	+223.4%
預り金	23,291	42,404	+82.1%
顧客からの預り金	18,927	26,726	+41.2%
その他の預り金	4,363	15,677	+259.3%
受入保証金	4,350	4,870	+12.0%
短期借入金	9,675	8,213	△15.1%
短期社債	6,000	11,000	+83.3%
固定負債	10,618	11,132	+4.8%
長期借入金	5,156	4,985	△3.3%
繰延税金負債	4,994	5,662	+13.4%
特別法上の準備金	160	163	+2.2%
金融商品取引責任準備金	160	163	+2.2%
負債合計	61,929	85,857	+38.6%
純資産の部			
株主資本合計	35,557	35,095	△1.3%
うち自己株式	△8,508	△8,451	-
その他の包括利益累計額	9,007	9,836	+9.2%
その他有価証券評価差額金	7,968	9,124	+14.5%
非支配株主持分	3,035	2,830	△6.7%
純資産合計	47,599	47,761	+0.3%
負債•純資産合計	109,529	133,619	+22.0%

(25/3期	ı	26/	3期	25/3期	26/3期	25/3期	26/3期	前年同期比
(百万円)	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	2Q比 増減率	1Q比 増減率	2Q累計	2Q累計	増減率
セグメント別営業収益連結計	4,580	5,681	5,372	4,242	5,694	+24.3%	+34.2%	9,533	9,937	+4.2%
証券事業	4,235	4,778	4,111	4,074	5,417	+27.9%	+33.0%	8,982	9,491	+5.7%
投資事業	290	762	1,183	168	236	△18.5%	+40.9%	461	404	△12.2%
運用事業	68	173	129	42	78	+14.0%	+83.7%	120	120	+0.7%
その他調整	△13	△ 33	△52	△42	△37	-	-	△29	△79	-
セグメント別営業利益連結計	△42	1,009	570	△576	349	-	-	306	△226	-
証券事業	△27	285	△327	△258	525	-	-	297	266	△10.5%
投資事業	△113	667	915	△137	△183	-	-	△42	△320	-
運用事業	△65	53	△33	△131	∆51	-	-	△136	△182	-
その他調整	164	3	17	△48	58	△64.6%	-	188	9	△94.9%
セグメント別税引前利益連結計	1,066	1,776	756	388	1,172	+10.0%	+201.6%	2,118	1,561	△26.3%
証券事業	△42	313	△264	△227	509	-	-	313	281	△10.2%
投資事業	980	1,335	1,059	746	396	△59.6%	∆46.9%	1,686	1,142	△32.3%
運用事業	△61	39	△28	△138	△50	-	-	△142	△188	-
その他調整	189	87	△9	8	317	+67.2%	-	260	325	+25.1%

0
_
000
스
GROL
LIES
出
<u>ಪ</u>
S
W
4IZA
_

(百万円)	2Q	25/3期 3Q	4Q	26/ 1Q	3期 2Q	25/3期 2Q比 增減率	26/3期 1Q比 増減率	25/3期 2Q累計	26/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業収益	4,580	5,681	5,372	4,242	5,695	+24.3%	+34.2%	9,533	9,937	+4.2%
受入手数料	3,390	3,779	3,476	3,273	4,355	+28.5%	+33.0%	6,935	7,629	+10.0%
委託手数料	1,324	1,561	1,383	1,432	1,960	+48.0%	+36.9%	2,824	3,393	+20.2%
引受·売出	0	24	6	1	32	-	-	2	34	-
募集・売出	831	826	779	785	834	+0.5%	+6.2%	1,668	1,620	△2.9%
その他	1,234	1,367	1,306	1,053	1,527	+23.8%	+45.0%	2,440	2,580	+5.8%
トレーディング損益	655	823	504	647	813	+24.0%	+25.6%	1,697	1,461	△13.9%
株券等	496	723	427	556	696	+40.4%	+25.1%	1,360	1,253	△7.9%
債券等	53	24	24	5	39	△25.9%	+613.4%	123	45	△63.5%
為替等	106	75	52	85	77	△27.1%	△9.2%	213	162	△23.6%
金融収益	249	195	236	158	294	+18.3%	+85.9%	453	453	+0.1%
その他の営業収益	285	882	1,155	162	231	△19.0%	+42.4%	447	393	△12.1%

LTD.
CO.
GROUP
SECURITIES
AIZAWA S

(百万円)	2Q	25/3期 3Q	4Q	26/: 1Q	3期 2Q	25/3期 2Q比 増減率	26/3期 1Q比 増減率	25/3期 2Q累計	26/3期 2Q累計	前年同期比增減率
営業収益	4,580	5,681	5,372	4,242	5,695	+24.3%	+34.2%	9,533	9,937	+4.2%
株式	2,039	2,511	1,988	2,181	2,825	+38.5%	+29.5%	4,617	5,006	+8.4%
委託手数料	1,324	1,561	1,383	1,432	1,960	+48.0%	+36.9%	2,824	3,393	+20.2%
トレーディング損益・ 金融収益等	715	949	605	748	864	+20.9%	+15.5%	1,793	1,613	△10.1%
投資信託	1,353	1,408	1,386	1,401	1,572	+16.2%	+12.2%	2,661	2,973	+11.7%
募集手数料	831	826	779	785	834	+0.5%	+6.2%	1,668	1,620	△2.9%
信託報酬等	521	582	607	615	737	+41.3%	+19.8%	993	1,352	+36.2%
ラップ商品	569	656	473	348	647	+13.8%	+85.9%	1,190	996	△16.3%
固定報酬•信託報酬	291	287	284	276	291	△0.0%	+5.7%	580	568	△2.1%
成功報酬	277	368	189	72	355	+28.3%	+392.9%	610	428	△29.8%
債券	55	27	26	7	41	△24.9%	+435.9%	127	49	△61.4%
不動産	127	123	123	125	127	+0.4%	+1.4%	251	253	+0.8%
営業投資有価証券	158	759	1,032	36	103	∆34.5%	+183.7%	196	140	△28.5%
その他	278	196	340	141	377	+35.6%	+166.7%	488	518	+6.2%

		0=/0#5		0.4	/o#5	25/3期	26/3期			
百万円)	2Q	25/3期 3Q	4Q	26/ 1Q	′3期 2Q	25/3期 2Q比 増減率	20/3期 1Q比 増減率	25/3期 2Q累計	26/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
販売費・一般管理費	4,396	4,618	4,597	4,575	5,097	+16.0%	+11.4%	8,920	9,673	+8.4%
取引関係費	903	1,049	1,002	976	1,318	+46.0%	+34.9%	1,817	2,294	+26.3%
人件費	2,222	2,284	2,244	2,259	2,416	+8.8%	+7.0%	4,569	4,676	+2.3%
不動産関係費	383	367	371	373	373	△2.6%	+0.1%	748	746	△0.2%
事務費	639	655	739	686	686	+7.4%	△0.1%	1,268	1,373	+8.3%
減価償却費	70	65	69	81	85	+21.1%	+5.0%	133	167	+25.5%
租税公課	84	79	80	79	112	+33.6%	+42.1%	158	191	+20.6%
その他	93	115	88	118	105	+12.5%	△11.5%	223	223	△0.2%
(百万円)	2Q	25/3期 3Q	4Q	26/ 1Q	′3期 2Q	25/3期 2Q比 増減率	26/3期 1Q比 増減率	25/3期 2Q累計	26/3期 2Q累計	前年同期比 増減率
営業外損益	88	173	158	238	96	9.1%	△59.4%	352	335	△4.9%
営業外収益	130	229	208	299	157	21.0%	△47.4%	446	456	+2.3%
営業外費用	41	56	49	60	60	46.7%	0.0%	93	120	+29.2%
特別損益	1,019	593	26	726	726	△28.7%	0.1%	1,458	1,452	△0.4%
特別利益	1,029	593	26	726	734	△28.7%	1.2%	1,725	1,460	△15.3%
特別損失	10	△ 0	$\triangle 0$	-	7	△21.6%	-	266	7	△97.0%

契約資産(時価)(百万円)、件数(件)			25/3期		26,	26/3期1Q比	
关利具性(时间八日刀口八叶致(叶)		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減率
スマイルゴール	契約資産(時価)	10,225	16,597	18,320	23,304	28,317	+21.5%
X 4 1 / U _ U	件数	1,426	2,172	2,553	2,963	3,315	+11.9%
ブルーラップ	契約資産(時価)	31,760	33,919	32,530	33,325	35,008	+5.1%
<i>フルー フッフ</i>	件数	1,481	1,490	1,494	1,440	1,415	△1.7%
コランドニップ	契約資産(時価)	57,459	55,012	50,216	48,992	48,732	△0.5%
ファンドラップ	件数	5,951	5,596	5,317	5,021	4,780	△4.8%
∆ =1	契約資産(時価)	99,445	105,529	101,066	105,623	112,059	+6.1%
合計	件数	8,858	9,258	9,364	9,424	9,510	+0.9%

スマイルゴール

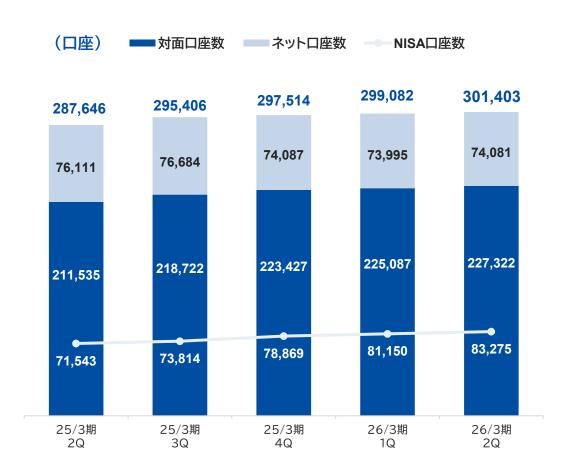
お客さま一人ひとりの目標(ゴール)から逆算して資産運用を考えるゴールベースアプローチ型ラップサービスアフターフォローを通じてお客さまとそのご家族と長期的なリレーションを築きます

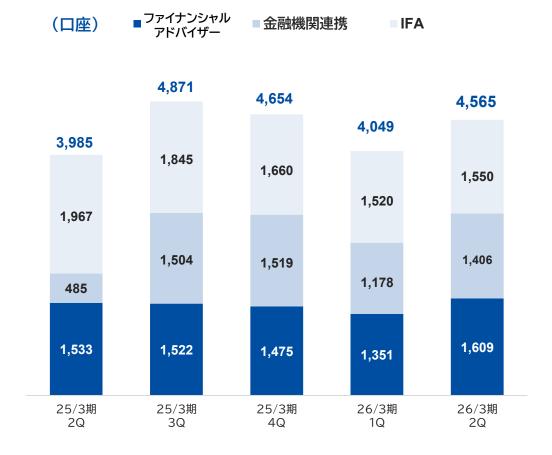
2023年8月からスタートした「ゴールベースアプローチ型ラップサービス(愛称:スマイルゴール)」は、お客様とそのご家族の長期的な資産運用・資産形成ニーズに対し、お客さま一人ひとりのライフプランの実現に向け、資産運用計画から実行までをサポートするラップサービスです。

ゴールベースアプローチ型営業において主力サービスとなっており、契約資産、件数ともに順調に推移しています。

総口座数の内訳とNISA口座数の推移

新規口座数の内訳と推移





株式委託手数料の推移

(百万円)	2Q	25/3期 3Q	4Q	26/ 1Q	3期 2Q	26/3期1Q比 増減率	26/3期2Q 委託手数料率
国内株式委託手数料	993	1,003	926	946	1,186	+25.4%	0.25%
⊢対面	854	865	796	814	1,030	+26.5%	0.43%
└ ネット	138	137	130	132	156	+18.1%	0.06%
外国株式委託手数料	288	518	424	457	749	+63.8%	1.88%
⊢対面	230	456	366	391	679	+73.8%	1.90%
└ ネット	58	62	57	66	69	+5.0%	1.74%

株式委託売買代金の推移

(億円)		25/3期		26/	26/3期1Q比	
(1971 1)	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減率
国内株式委託売買代金	3,668	3,737	3,605	4,029	4,801	+19.2%
├ 対面	1,690	1,896	1,733	2,143	2,372	+10.7%
└ ネット	1,977	1,841	1,872	1,886	2,429	+28.8%
外国株式委託売買代金	152	278	231	244	397	+62.3%
├ 対面	117	242	198	206	357	+73.4%
└ ネット	34	35	32	38	39	+3.1%

■ アイザワ証券グループ

お問合せ先

アイザワ証券グループ株式会社 経営企画部

E-MAIL ir@aizawa-group.jp URL https://www.aizawa-group.jp/